

那珂川市水源地域振興基本構想

令和 2 年 3 月

那珂川市

内容

1. 目的	1
1-1. 目的	1
1-2. 計画期間	1
2. 現状について	2
2-1. 全国の観光の現状	2
2-2. 那珂川市の観光の現状	6
2-3. 施設管理者ヒアリング調査	15
2-4. 施設利用者アンケート調査	18
3. 水源地域の強みと課題	20
3-1. 水源地域の強み	20
3-2. 水源地域の振興における課題	21
3-3. 強み課題と基本方針・施策の方向性との関係	23
4. 基本方針	24
4-1. ターゲット	24
4-2. コンセプト：都心から近いアーバンアウトドアの聖地	24
4-3. 水源地域におけるゾーニング	25
4-4. 基本目標	26
5. 施策	28
5-1. 観光商品・特産品の開発	28
5-2. 情報発信の強化	30
5-3. 水源地域の振興を担う人材や組織の育成・誘致	32
5-4. 水源地域のインフラ強化	34
5-5. 中山間地域・山間部の維持・保全	35

1. 目的

1-1. 目的

- ・本市では、平成 30 年度に開園した五ヶ山水源公園やグリーンピアなかがわ等の観光施設を中心とした観光振興を行っている。本業務は、五ヶ山水源公園やグリーンピアなかがわ等の山間部における水源地域振興基本構想を策定することで、本市の豊かな自然環境を活かした観光資源を擁する水源地域の持続的な振興を図る取組みにつなげていくことを目的とする。

1-2. 計画期間

- ・本計画の計画期間は令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間とし、5 年ごとに見直しを行うものとする。

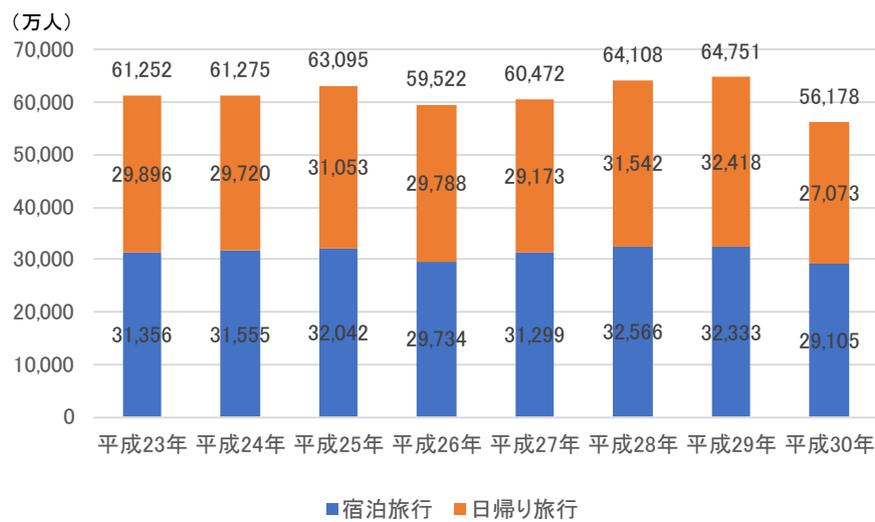
2. 現状について

2-1. 全国の観光の現状

(1) 我が国の観光の動向

①日本人国内延べ旅行者数の推移

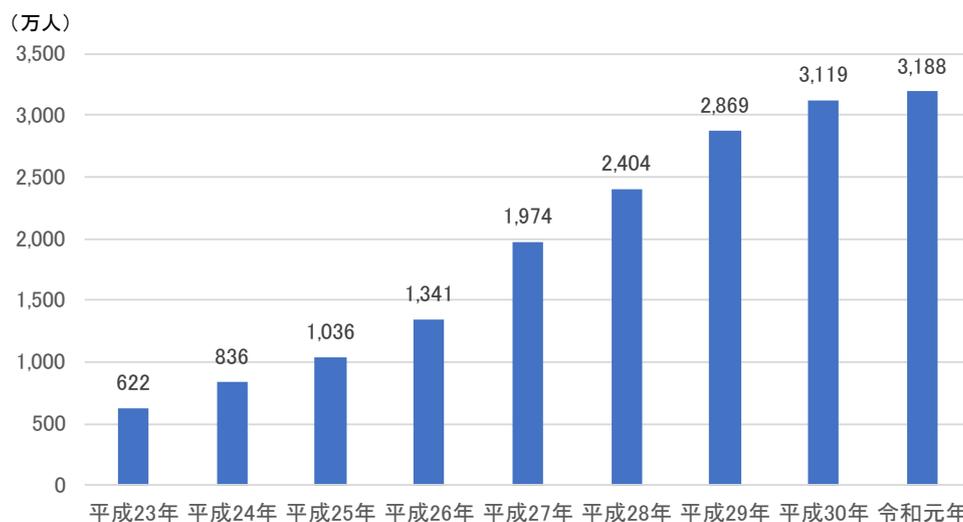
・観光庁によると、平成30年の日本人国内延べ旅行者数は5億6,178万人で、東日本大震災以降最低の数字となった。



参考資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

②訪日外国人旅行者数の推移

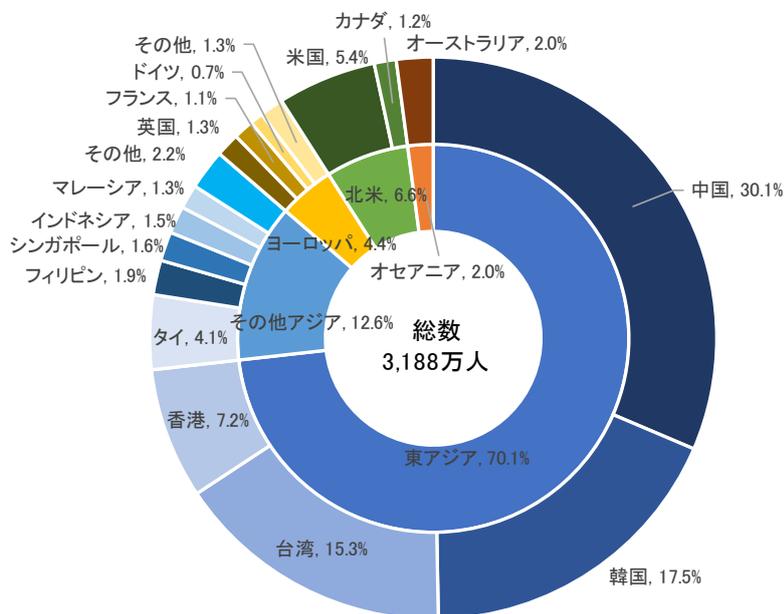
・JNTOの推計（速報値）によると、令和元年の訪日外国人旅行者数は3,188万人で、前年を2.2%上回り、過去最高を更新した。



参考資料：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

③訪日外国人旅行者数の国・地域別割合

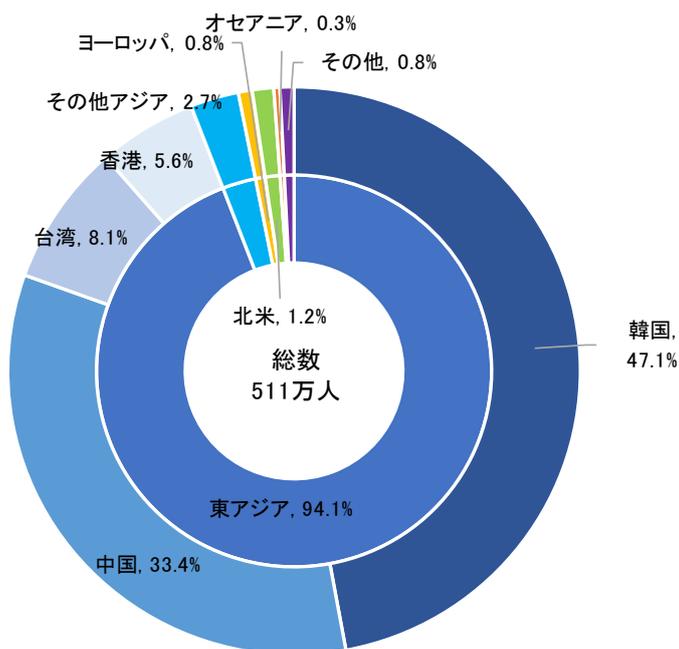
- 令和元年の一年間の訪日外国人旅行者数 3,188 万人のうち、最も多いのは「中国」(30.1%)、次いで「韓国」(17.5%)、「台湾」(15.3%)、「香港」(7.2%) であり、これら「東アジア」からの旅行者が全体の 70.1%を占める。



参考資料：日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」(平成 31 年、令和元年)

④訪九州外国人旅行者数の国・地域別割合

- 平成 30 年の一年間の訪九州外国人旅行者数 511.6 万人のうち、最も多いのは「韓国」(47.1%)、次いで「中国」(33.4%)、「台湾」(8.1%)、「香港」(5.6%) であり、これら「東アジア」からの旅行者が全体の 94.1%を占める。

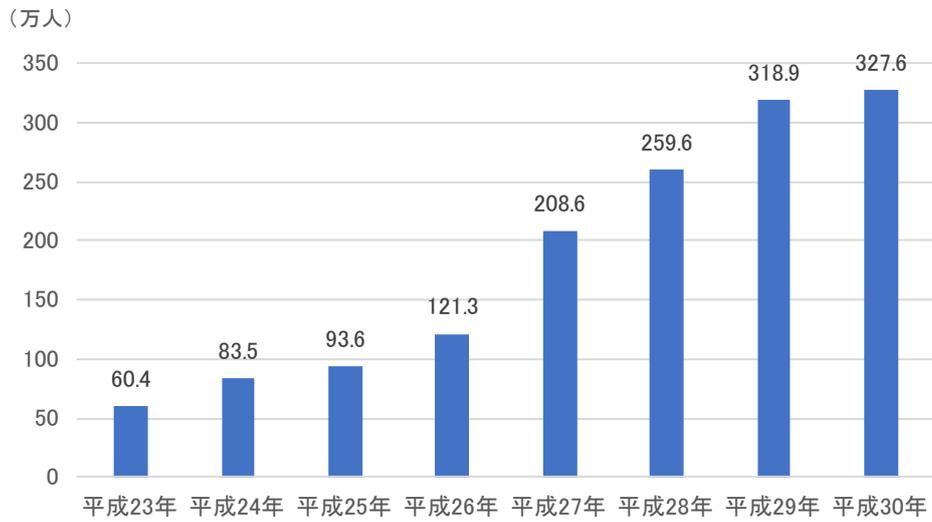


参考資料：九州運輸局「九州への外国人入国者数の推移」

(2) 福岡県の観光の動向

①福岡県内入国者数

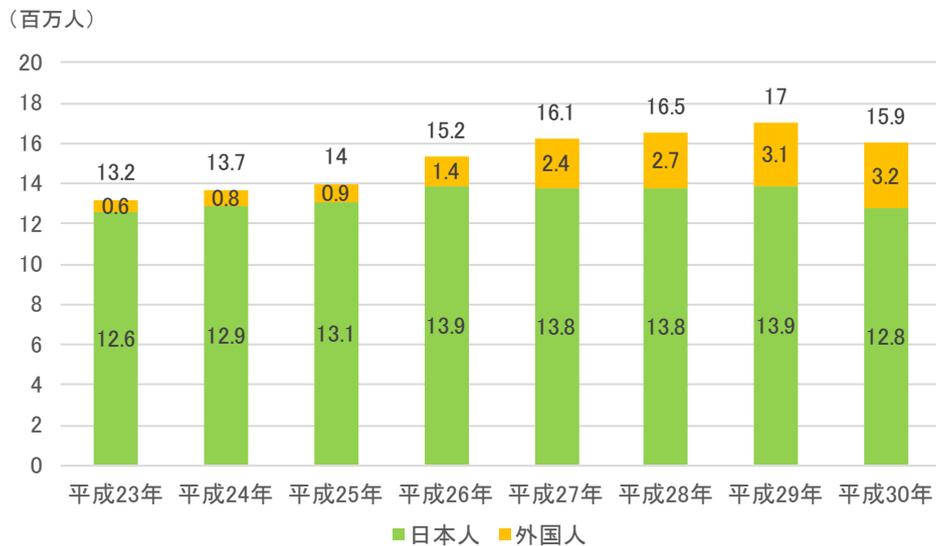
- ・平成30年の入国者数（クルーズ船含む）は、327.6万人で、前年を2.8%上回っている。



資料：法務省「出入国管理統計」

②福岡県内延べ宿泊者数

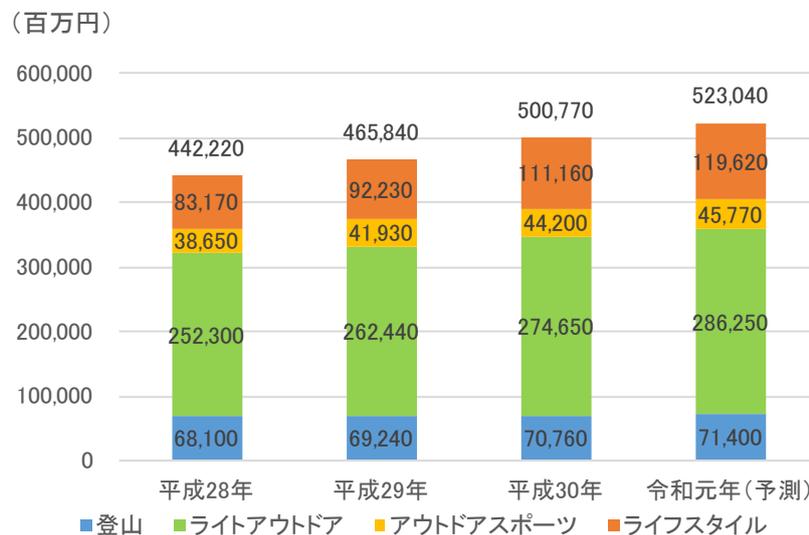
- ・平成30年の延べ県内宿泊客数は1591.7万人で前年から6.4%減少している。
- ・一方で、外国人延べ宿泊者数は300.2万人で前年を0.5%上回っている。



資料：観光庁「宿泊旅行統計」

(3) アウトドア市場の現状

- ・矢野経済研究所が毎年発行している「2019 アウトドアビジネス」によると、平成30年の国内アウトドア市場規模は5,007億70百万円と推計している。項目別では、「ライトアウトドア」(キャンプ、ハイキング、野外フェス)が最も多く、2,746億50百万円、次いで「ライフスタイル」(街歩きや旅行、通勤・通学等)が1,111億60百万円、「登山」が707億60百万円、「アウトドアスポーツ」が442億円となっている。
- ・アウトドア市場では、幅広い層でキャンプ人気が高まっており、これまでシーズンオフとされてきた平日や冬季等の利用者も増え、キャンプ場では繁閑の平準化が進んでいる。
- ・令和元年の市場規模では、5,230億40百万円と予測されている。平成30年と比較して増加した要因に、有力アウトドアブランド人気の継続や大型連休中に満員となるキャンプ施設が出るなど、施設需要に加え、関連用品に需要が波及していることが挙げられる。



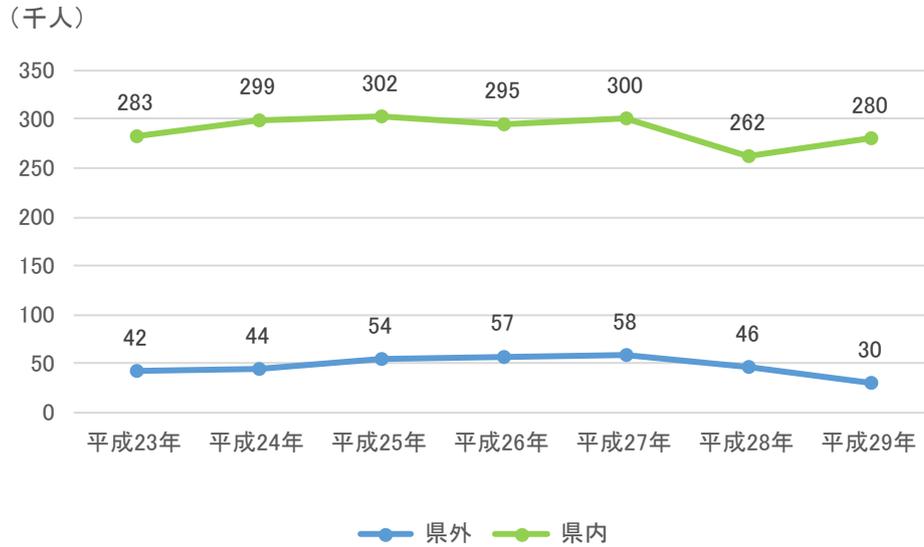
参考資料：2019 アウトドアビジネス

2-2. 那珂川市の観光の現状

(1) 那珂川市入り込み客数の推移

① 県内外観光客の推移

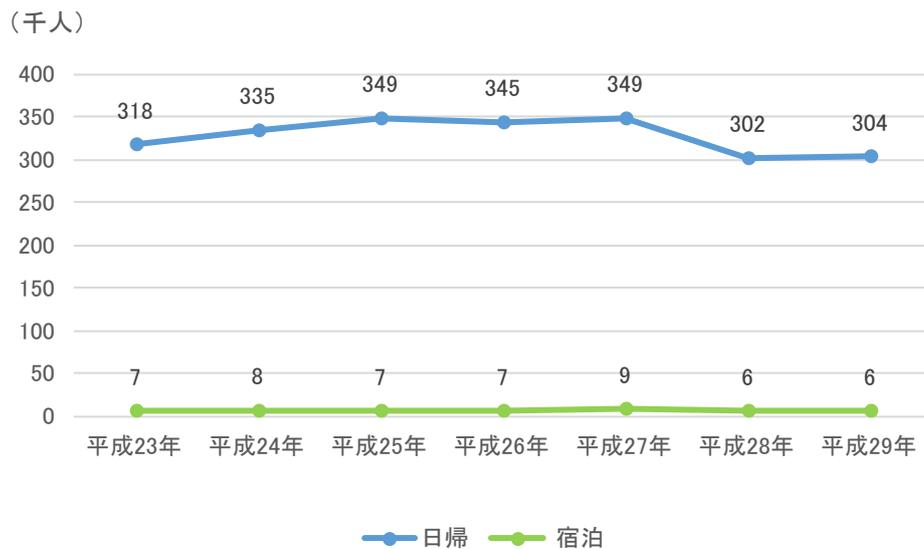
- ・平成29年の県内観光客は280千人で、平成28年と比較して回復傾向にある。
- ・平成29年の県外観光客は30千人で、平成27年をピークに減少している。



参考資料：平成29年福岡県観光入込客推計調査

② 日帰りおよび宿泊状況

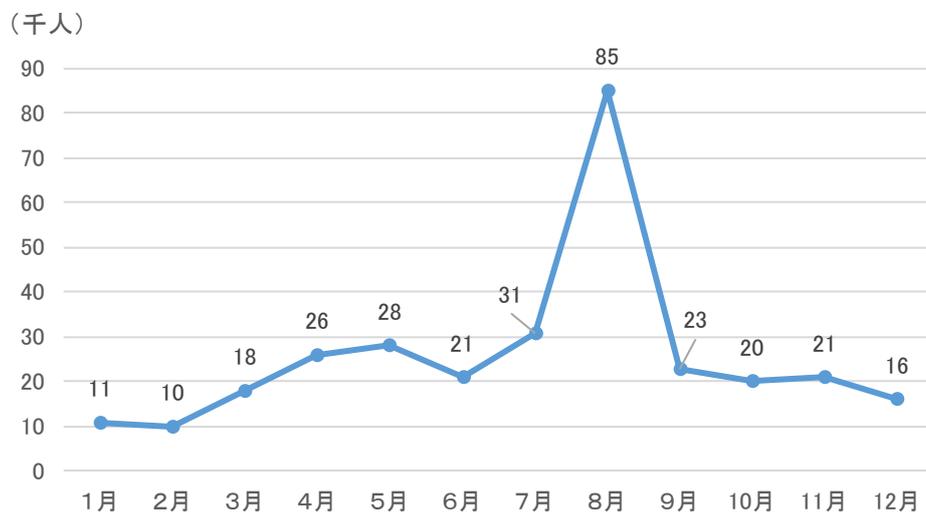
- ・平成29年の日帰り観光客は304千人、宿泊客は6千人となっている。
- ・日帰り、宿泊ともに平成27年をピークに減少している。



参考資料：平成29年福岡県観光入込客推計調査

③月別入込客数の状況

- ・平成 29 年の月別入込客数を見ると、8 月が最も多く 85 千人、次いで 7 月が 31 千人、5 月が 28 千人となっている。
- ・夏季期間にキャンプ、川遊び、山水プール等のイベントで訪れる観光客が多いことが要因に挙げられる。

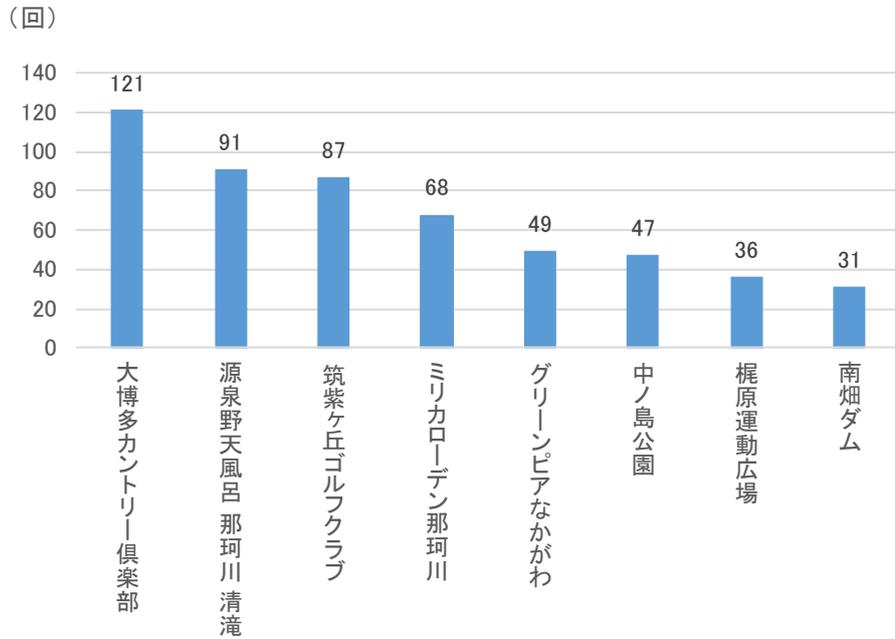


参考資料：平成 29 年福岡県観光入込客推計調査

④観光施設等を目的地とした検索回数（平成 29 年休日）

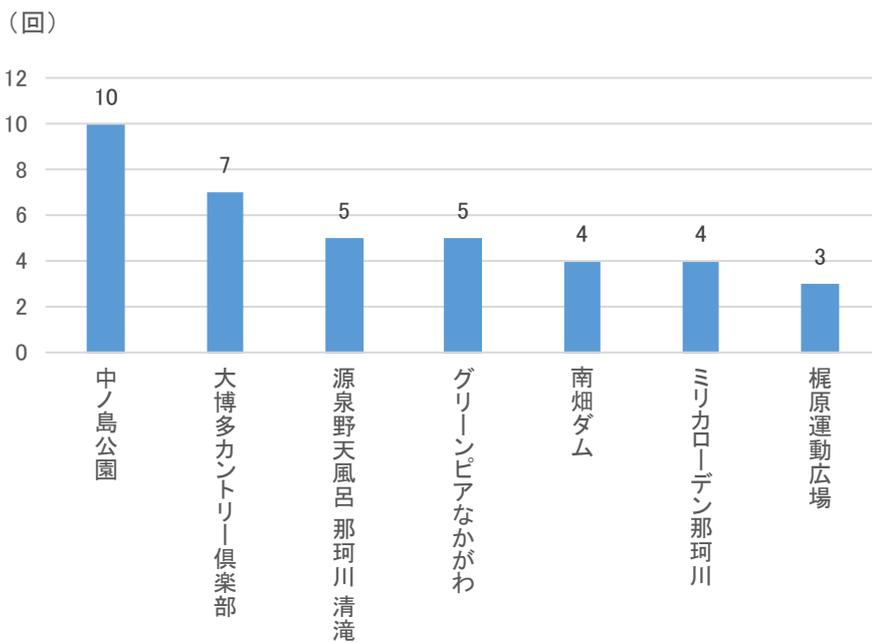
- ・1年あたりの検索回数は「大博多カントリー倶楽部」が121回で最も多く、次いで「厳選野天風呂那珂川清滝」が91回、「筑紫ヶ丘ゴルフクラブ」が87回となっている。
- ・平成29年8月のみを見ると、中ノ島公園が最も多い。

平成 29 年総数



リーサス「経路検索条件データ」

平成 29 年 8 月



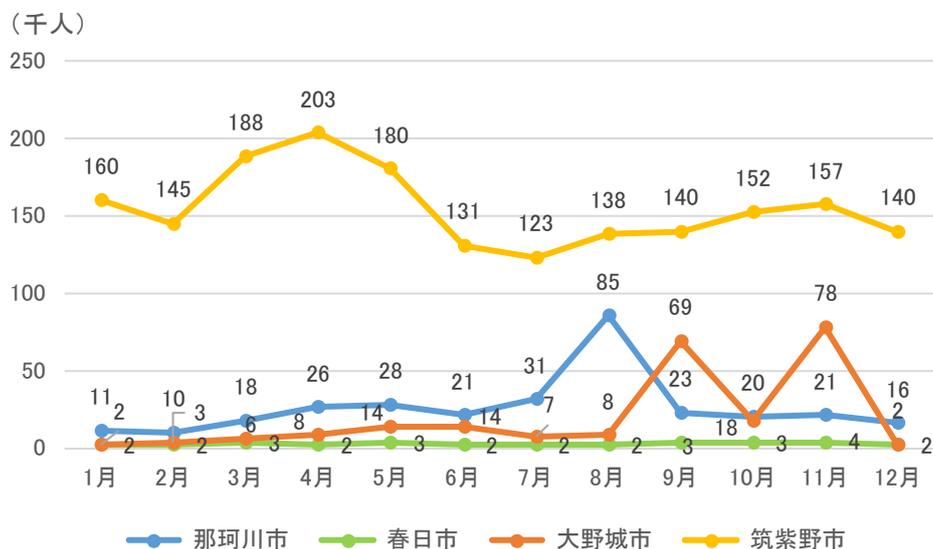
リーサス「経路検索条件データ」

(2) 他都市比較

①近隣都市比較

●月別入込客数

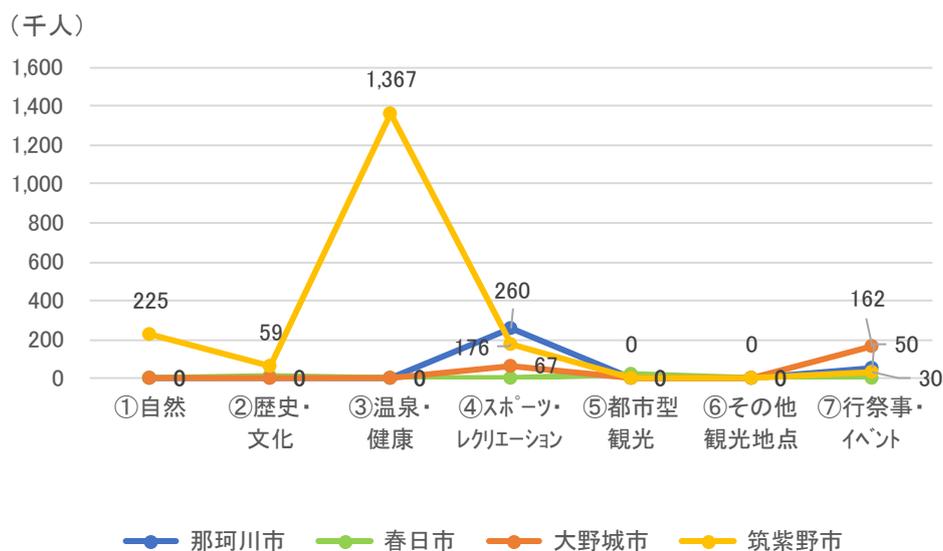
- ・筑紫野市は4月（二日市温泉藤まつり）、大野城市は9月（おおの大文字まつり）と11月（まどかフェスティバル）に入込客が増加している。近隣市町ごとにピークの時期がずれている。



参考資料：平成 29 年福岡県観光入込客推計調査

●目的別入込客数

- ・総入込客数は筑紫野市が 158.7 千人で最も多いが、「スポーツ・レクリエーション」を目的とした入込客数は那珂川市が 260 千人で最も多い。

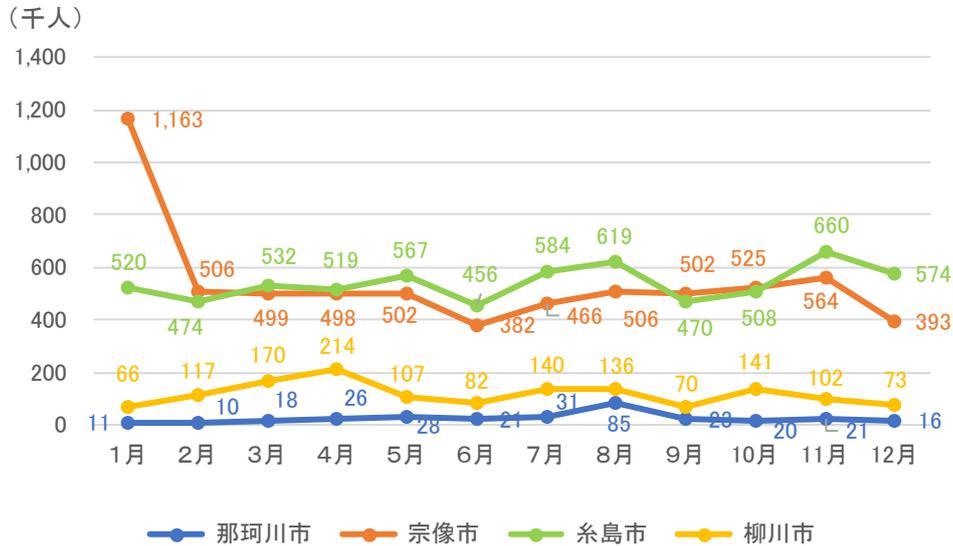


参考資料：平成 29 年福岡県観光入込客推計調査

②競合他都市比較

●月別入込客数

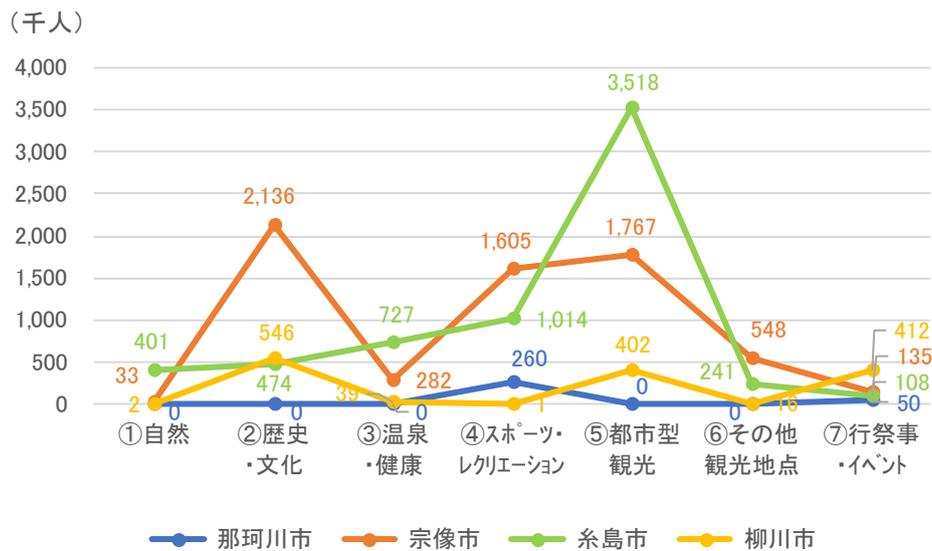
- ・月別で見ると、宗像市は1月が最も多い。要因に宗像大社への初詣客の影響が挙げられる。また、糸島市は11月、柳川市は4月が最も多い。



参考資料：平成 29 年福岡県観光入込客推計調査

●目的別入込客数

- ・那珂川市は「スポーツ・レクリエーション」、宗像市、柳川市は「歴史・文化」、糸島市は「都市型観光」が、それぞれの都市に訪れた主目的となっている。



参考資料：平成 29 年福岡県観光入込客推計調査

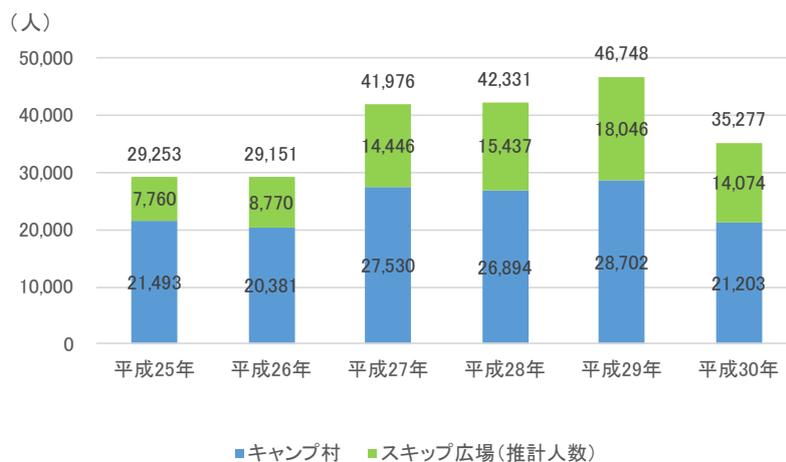
(3) アウトドア施設の現状

①グリーンピアなかがわ

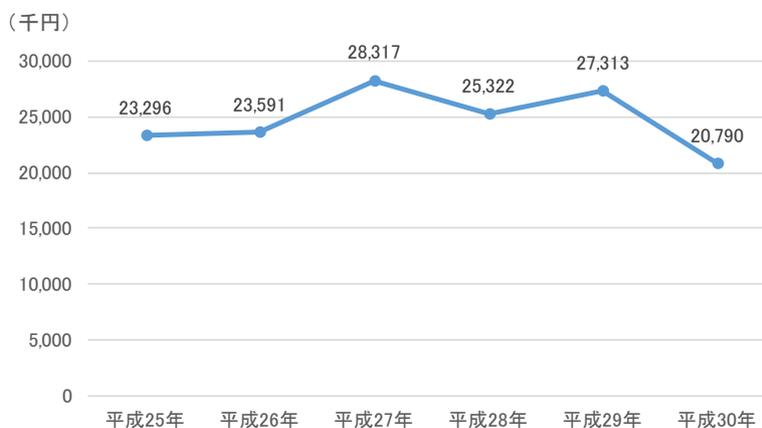
施設名：グリーンピアなかがわスキップ広場	
所在地：福岡県那珂川市大字五ヶ山 870-2	代表建築年度：昭和 61 年
延床面積：629.0 m ²	駐車場：無料 200 台
営業時間：9 時半～17 時	
休業日：木曜日（7 月中旬～8 月末は無休）	
施設名：グリーンピアなかがわキャンプ村	
所在地：福岡県那珂川市大字五ヶ山 870-2	代表建築年度：平成 5 年
延床面積：1746.0 m ²	駐車場：無料 140 台
営業時間：10 時～17 時（予約受付：9 時～17 時）	
休業日：水、木曜日（7 月中旬～8 月末は無休）	

- ・入場者数の推移は、グリーンピアなかがわのスキップ広場、キャンプ村ともに平成 29 年が最も多く、平成 30 年では減少に転じている。
- ・平成 30 年の年間売上額は 2,079 万円で、前年の平成 29 年と比較して 600 万円以上減少している。

入場者数の推移



年間売上額

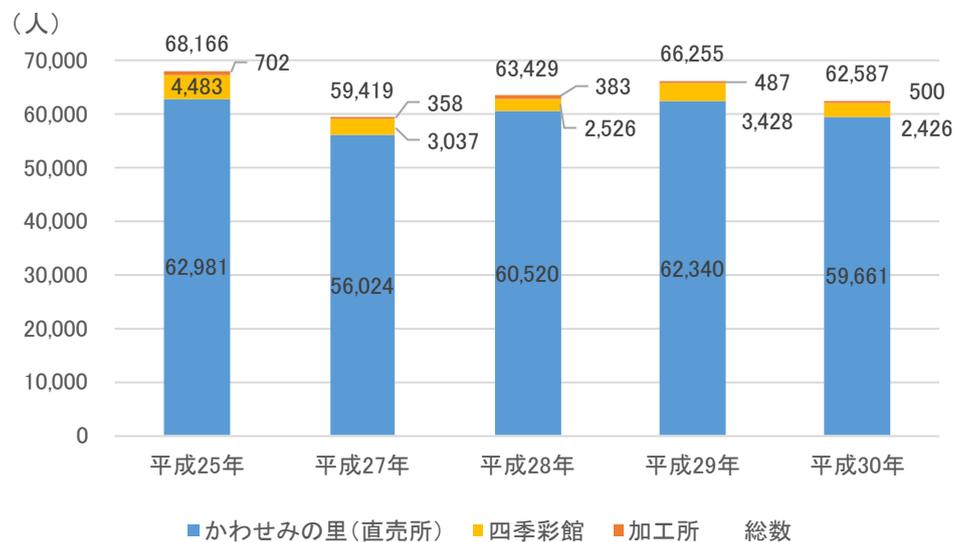


②中ノ島公園

施設名：中ノ島公園	
所在地：福岡県那珂川市市ノ瀬 445-1	代表建築年度：昭和 53 年
延床面積：398.9 m ²	駐車場：無料 124 台（車椅子区画 4 台）
営業時間：8 時半～18 時まで（4～9 月） 8 時半～17 時まで（10～3 月）	
休業日：月曜日、月曜日が休日の場合、翌日が休み（12～3 月のみ、4～11 月は無休）	
園内施設：かわせみの里（生産物直売所）、四季彩館（公園管理センター）、農林産物処理加工所	

- ・平成 30 年の入場者数は「かわせみの里（直売所）」が 59,661 人、「四季彩館」が 2,426 人、「加工所」が 500 人となっている。
- ・平成 29 年と比較して、「かわせみの里（直売所）」、「四季彩館」は減少したが、「加工所」は増加している。

利用者数の推移



③五ヶ山クロス

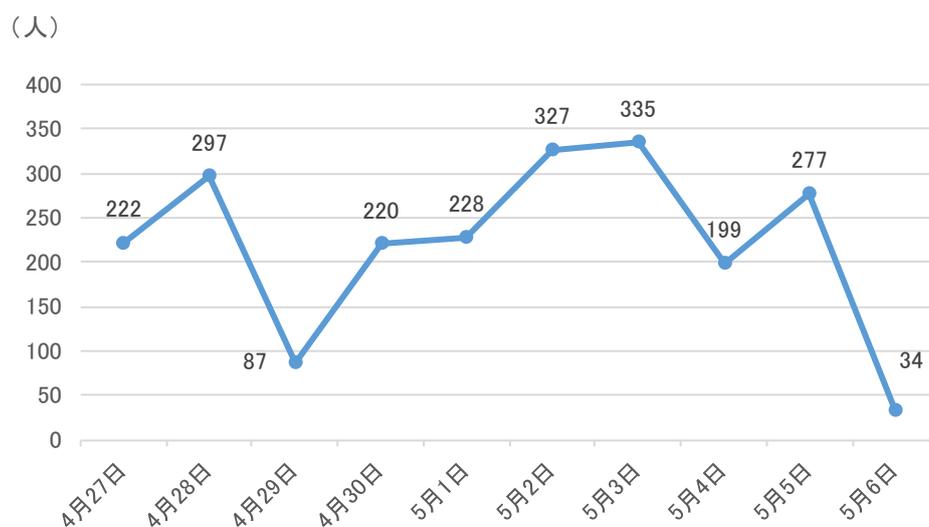
施設名：五ヶ山クロスベース	
所在地：福岡県那珂川市大字五ヶ山 1397-46	代表建築年度：平成 31 年
駐車場：無料 116 台（大型 5 台）	営業時間：10 時～（店舗により異なる）
園内施設：モンベル福岡五ヶ山店（物販）	
営業時間 10 時～19 時	休業日：なし
園内施設：CAPANNA（飲食）	
営業時間 10 時～17 時	休業日：なし

施設名：五ヶ山クロスキャンプサイト	
所在地：福岡県那珂川市大字五ヶ山 461-1	代表建築年度：平成 31 年
駐車場：あり	
営業時間：8 時～19 時（定休日は火曜日※祝日、GW、7/1～8/31 は除く）	
休業日：火曜日（月・火・水曜日が祝日の場合と、GW、7～8 月は除く）	

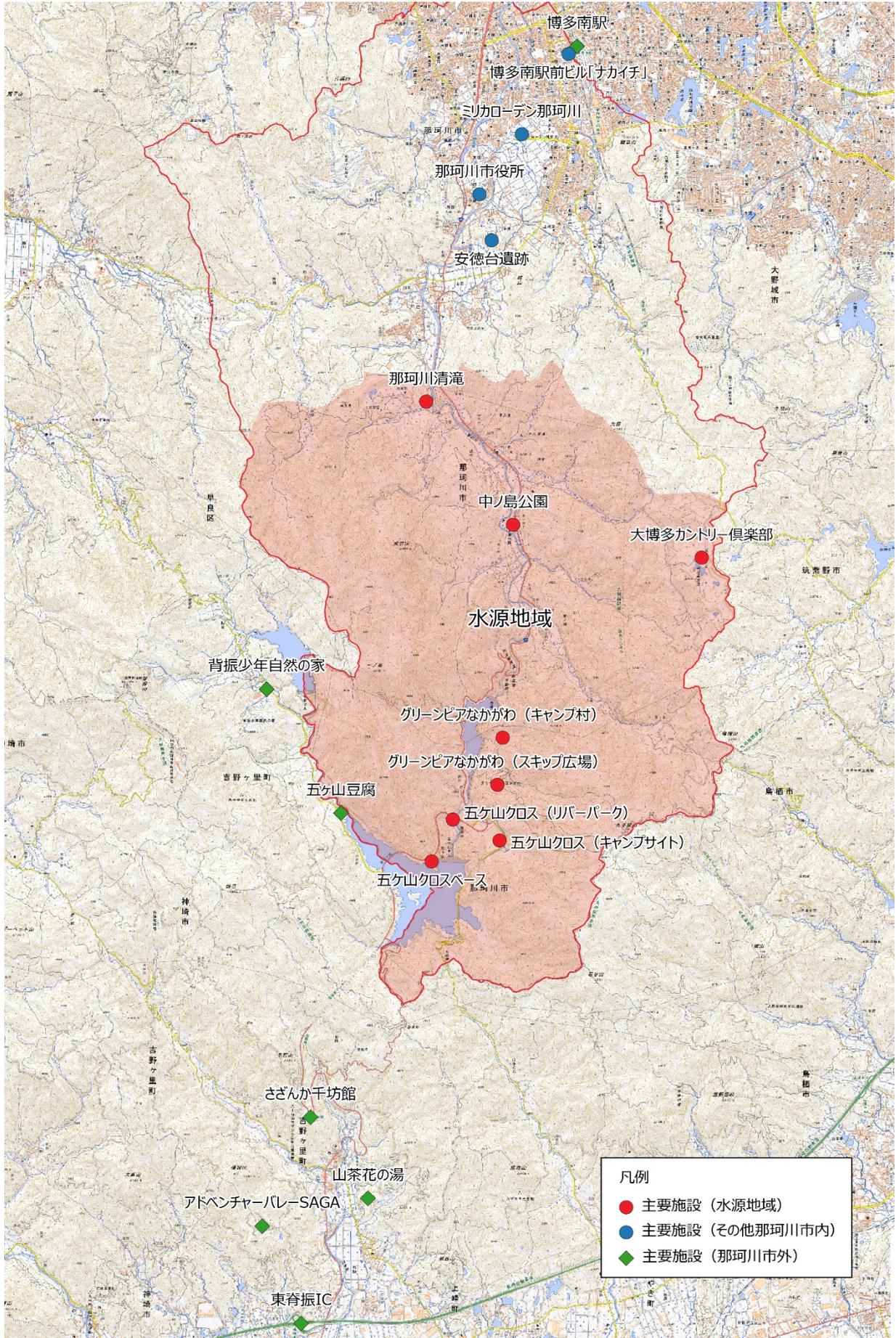
施設名：リバーパーク	
所在地：福岡県那珂川市大字五ヶ山 1291-1	代表建築年度：平成 31 年
駐車場：無料 56 台	

- ・五ヶ山クロスキャンプサイトにおける、平成 31 年 4 月 1 日から 4 月 30 日までの利用者は 1,759 人となっている。
- ・ゴールデンウィーク期間は 2,226 人が五ヶ山クロスキャンプサイトで宿泊している。
- ・五ヶ山クロスベース、五ヶ山クロスキャンプサイト、リバーパークは平成 31 年にオープンしたばかりのため、まだ、データは集まっていない。

GW 宿泊客数の推移



(4) 水源地域周辺施設



2－3．施設管理者ヒアリング調査

(1) 調査概要

①調査目的

- ・施設の運営状況や現状の課題、他施設との連携意向等について把握し、今後の課題解決や施策検討の基礎データとすることを目的に実施。

②調査施設

- ・グリーンピアなかがわ、中ノ島公園、株式会社ぼうぶら会議、モンベル福岡五ヶ山店（五ヶ山クロスキャンプサイト）

③調査日

- ・令和元年6月24日（月）、26日（水）、28日（金）

④調査方法

- ・個別ヒアリング形式

(2) 調査結果

●利用者層、年代

- ・グリーンピアなかがわでは、ファミリー層、大学生、スポーツ団体といった層が主要な利用者となっており、主要利用層をターゲット層と認識している。夏季の山水プール期間中は、土日に400人程度訪れている。
- ・中ノ島公園では、平日の利用者は福岡都市圏に住むシニア世代が多い。休日はサイクリストが1日あたり50台程度訪れている。夏季期間は、川遊びを目的に多くのファミリー層が訪れている。
- ・五ヶ山クロスキャンプサイトでは、福岡都市圏に住むファミリー層の利用が多く、全体の利用者のうち、半数がキャンプ初心者となっている。また、グリーンピアなかがわでもキャンプ初心者の利用が増えている。
- ・中ノ島公園では、川遊びができる夏季期間に多くの利用者が訪れているが、直売所の利用者は農産品の品揃えが豊富な秋が最も多い。

●各施設の課題

- ・グリーンピアなかがわ、中ノ島公園では、山手に立地しているため新規のアルバイトが集まりづらい。また、既存のアルバイトの高齢化も進んでおり人材面の課題が挙げられている。
- ・グリーンピアなかがわでは、山水プール、ポンプは耐用年数を迎えており、改修時期を迎えている。
- ・中ノ島公園では、夏季期間やホテル鑑賞ができる時期に利用者が集中するため、国道385号は渋滞し、駐車場も混雑する等、警備員を雇い対応している。
- ・五ヶ山クロスキャンプサイトでは、遊び機能を充実させたいの意見が挙がった。

●連携について

- ・各施設とも連携意向はあり、五ヶ山クロスネットワーク会議等で、連携に向けた動きが生まれることを期待しているとの意見が挙がった。
- ・五ヶ山クロスキャンプサイトはフリーサイト、グリーンピアなかがわはバンガローがメインとなっているため、施設間の棲み分けができている。
- ・中ノ島公園と五ヶ山クロスで、買い物特典などを用いた連携をしたいとの意見が挙がった。
- ・南畑地域だけでなく、西畑地域とも連携していきたいとの意見が挙がった。
- ・中山間ふるさとまつりと南畑美術散歩が毎年、同日開催されているので、連携して取り組んでいきたいとの意見が挙がった。

●今後の目標

- ・グリーンピアなかがわでは、今後も五ヶ山クロスキャンプサイトと併存し協力していきたい。
- ・グリーンピアなかがわ、中ノ島公園では、既存の利用者を今後も大事にしたいという意向が高い。
- ・五ヶ山クロスキャンプサイトでは、既存の取り組みを継続しつつ、市民の方に喜んでいただける機能を作っていきたい。

●南畑地域の移住、定住事業について

- ・2年間で約145件の移住相談が来ており、13組が南畑地域に移住している。福岡都市圏に住む世帯の移住希望が多い。
- ・移住希望者は賃貸の希望が多いが、家主は売買の希望が多い。
- ・南畑地域の各施設が連携することで、関係人口の増加に繋がるのでは、と考えている。
- ・移住事業で、専門性が高い役割を福岡R不動産に委託しているが、将来的に移住事業を株式会社ぼうぶら会議のみで、運営できるようになりたい。

●南畑地域振興に関するアイデアや意見

- ・国道385号は道が狭く怖いといった負のイメージを持っている利用者がいる。
- ・山で味わうことができる魅力を南畑地域で体感できればと考えている。
- ・五ヶ山にはサイクリストが多く訪れているので、今後もサイクリストにとって選ばれる地域になれば良い。
- ・五ヶ山クロスキャンプサイトでは、地元の農産物の販売やマルシェ等のイベントの開催ができる可能性がある。
- ・地域と連携して、何か行えないかと模索している。地域との仲介、検討の場の創出は那珂川市に協力を要請したい。
- ・五ヶ山クロスが盛んになることで、長期的に南畑地域全体に勢いが波及してほしい。

●那珂川市へ期待すること

- ・グリーンピアなかがわでは、耐用年数を迎え、老朽化した施設を改修してほしいとの意見が挙がった。
- ・中ノ島公園まで公共交通が通っているが、五ヶ山地域へは公共交通で行けないため、路線の延伸、新規就航を検討してほしいとの意見が挙がった。
- ・五ヶ山クロスを周辺施設一体で活性化させたいと考えているので、伴走をお願いしたい。

2-4. 施設利用者アンケート調査

(1) 調査概要

①調査目的

- ・施設利用者のニーズや南畑地域に対するイメージを把握し、今後の課題解決や施策検討の基礎データとすることを目的に実施。

②調査場所

- ・グリーンピアなかがわ、中ノ島公園、五ヶ山クロスベース、五ヶ山クロスキャンプサイト

③調査日

- ・令和元年7月27日(土)、28日(日)、8月3日(土)

④調査方法

- ・ヒアリング形式(調査員が聞き取りながら記入をしていく形式)。

⑤回答状況

	グリーンピアなかがわ	五ヶ山クロス キャンプサイト	五ヶ山クロスベース	中ノ島公園	日別計
7月27日(土)	69	6	20	36	131
7月28日(日)	42	8	17	27	94
8月3日(土)	15	11	52	37	115
総計	126	25	89	100	340

(2) 調査結果

●主な来訪者は福岡都市圏・30～40代ファミリー層で、7割がリピーター

- ・調査時期におけるメインの客層は福岡都市圏の30～40代ファミリー層であり、多くは車を利用して日帰りで訪れている。また、リピーター率も7割と高い。
- ・一方で佐賀県在住者など、他県からの利用者の割合は少ない。

●「都市に近いアウトドアスポット」というイメージが定着

- ・南畑地域、那珂川市に関するイメージは、「自然が豊か」と回答した割合が最も高く8割以上となっている。次いで、「キャンプ地」、「都市から近い」であり、福岡都市圏のファミリー層において、南畑エリアが「都市から近く、気軽に行けるアウトドアスポット」として認知されていることが伺える。

●知人の口コミ、公式観光HP、テレビ・ラジオが情報源

- ・旅先を南畑地域に決める際、または旅行中に参考にしたメディアについて、「親族・知人からの口コミ」に次いで、「自治体等の公式観光HP」が17.1%となっており、知っている人からの口コミや行政による情報発信を参考に動く割合が比較的高い。
- ・一方でフェイスブック、インスタグラム、ツイッターについては5%を下回っており、SNS・Web上におけるさらなる情報流通量の増大が期待される。

●平均立ち寄り箇所数は1.5箇所と、回遊促進の余地は大きい

- ・今回の旅行において立ち寄った場所の数は1箇所のみと回答した割合が最も高く、平均立ち寄り箇所数は1.5であり、回遊促進の余地は大きい。

●那珂川市訪問の全体的な満足度は高いが、飲食・買い物は比較的低い

- ・南畑地域に関する満足度は85.0%と高く、特に自然景観への満足度が高いが、買い物や飲食店については約5割と比較的低く、不満だった点として「飲食、買い物施設が少ない」といった意見が21件見られている。飲食や買物の魅力向上により、さらなる満足度の向上が期待される。

●観光消費は1,317円と、さらなる消費拡大の余地が大きい

- ・平均消費額は1,317円であり、1円も使っていないという回答が29.4%を占めた。上記の飲食・買い物に加え、体験型観光商品や宿泊等も含め、地域内における観光消費を促す仕組みが必要と考えられる。

3. 水源地域の強みと課題

3-1. 水源地域の強み

①美しい自然・田園景観

- ・本市の水源地域においては、九千部山の緑が広がり、那珂川流域には清流沿いに棚田が広がる田園景観があり、その美しさに惹かれ観光客や移住者が集まっている。この美しい自然・田園景観は水源地域の大きな強みとなっている。

②水源地域ならではの観光資源・施設の存在

- ・水源地域においては、安心して川遊びを楽しめる中ノ島公園やグリーンピア那珂川、新たにオープンした五ヶ山クロスベース、キャンプサイト、五ヶ山豆腐等の水源地域ならではの資源を活用した観光施設が存在する。これらの観光資源・施設の存在は、本市の水源地域の魅力を形成する重要な要素である。

③福岡都市圏に近接した立地環境

- ・九州最大のマーケットである福岡都市圏から車で、約1時間で来訪可能であり、博多駅と直結する博多南駅を有するなど、立地に恵まれている。

④福岡都市圏在住、30～40代ファミリー層という固定客の存在

- ・来訪者の約7割がリピーターとなっており、福岡都市圏在住の30～40代ファミリー層という明確な固定客が存在する。

⑤ブランド力のある企業の立地

- ・新たにオープンした五ヶ山クロスキャンプサイト等のユニークなキャンプ場や店舗をはじめ、ブランド力のある企業が立地している。

⑥地域を牽引するリーダー的人材、団体の存在

- ・南畑みらい協議会等、地元住民と新たに移住した住民が対話する場があり、榊ぼうぶら会議等の地域のまちづくりを牽引するリーダー的人材・団体が存在する。

⑦移住に向けた取組の蓄積、移住希望者の存在

- ・地域のリーダーによる移住者誘客の取組が行われており、観光客から地域のファンになってもらい、さらに移住につなげるような、時間をかけた丁寧な移住定住対策が継続されている。こうした取組は水源地域の大きな資産であり、地域の活力の維持につながっている。

⑧吉野ヶ里とのアクセス性の良さ

- ・九州を代表する史跡の一つである吉野ヶ里歴史公園をはじめ、温泉・道の駅等の多様な観光資源を有する吉野ヶ里町と東脊振トンネルで結ばれており、佐賀方面とのアクセスが良好である。吉野ヶ里町と連携した観光誘客を図ることが可能な点は、本市の水源地域の強みの一つである。

3-2. 水源地域の振興における課題

①水源地域来訪者の回遊が狭い

- ・他施設との連携は、五ヶ山クロスネットワーク会議等を通じて取れつつあるが、平均立ち寄り地域は1.5箇所であり、連携強化の余地が大きい。
- ・アンケートにおける「水源地域に期待すること、不満、要望」において、周辺に観光施設、カフェ等の飲食店が少ない、知らないと回答した人が19件(5.6%)と最も多く、立ち寄りスポットの情報が伝わっていないことも回遊が広がっていない一因となっている可能性がある。

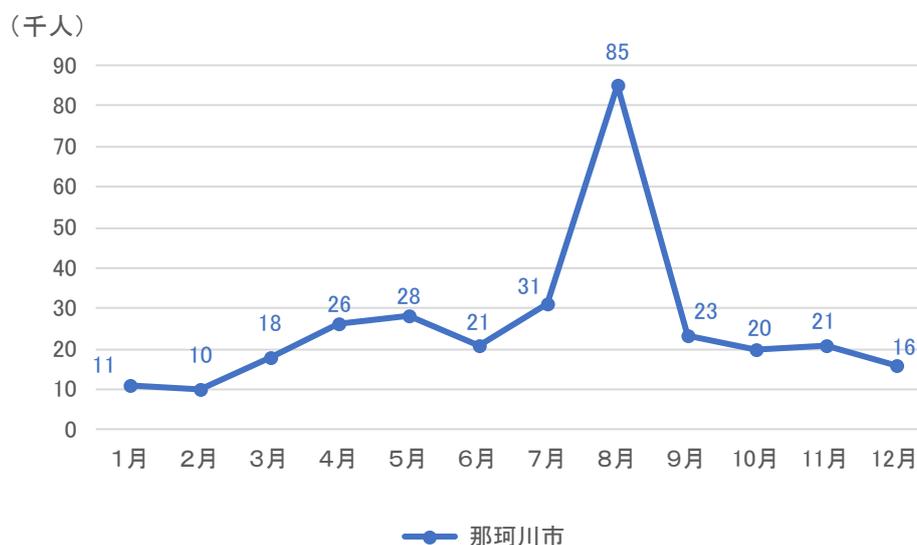
②水源地域来訪者の観光消費額が低い

- ・「水源地域ならではの名産品が少ない」といった意見が複数事業者から聞かれた。
- ・また、アンケートにおける平均観光消費額が1,317円で、1円も使っていないという解答が29.4%あり、消費額の拡大の余地は大きい。

③季節で来訪者のピークとボトムの差が大きい

- ・川遊び、流水プールなど、夏季期間がメインとなるアクティビティが多いため来訪者が夏季に集中しており、渋滞等について地域住民から苦情が届いている。
- ・観光客数のピークとボトムの平準化、冬期の集客対策が課題となっている。

那珂川市への観光客数



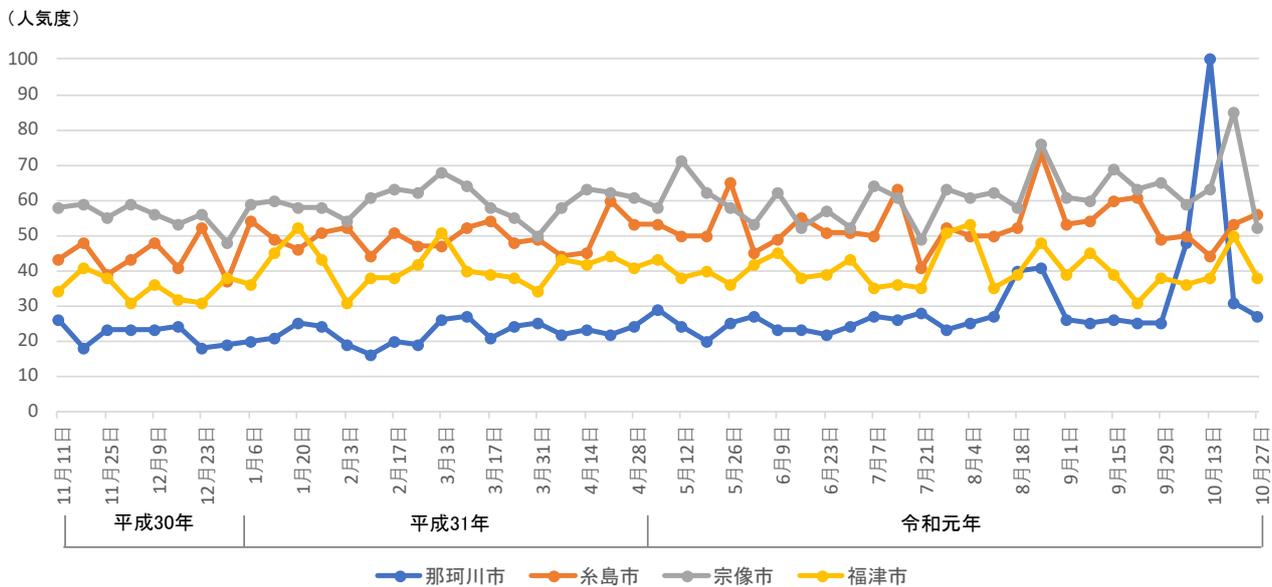
参考資料：平成29年福岡県観光入込客推計調査

④水源地域にある各施設の役割分担が明確ではない

- ・「グリーンピアなかがわ」、「五ヶ山クロスキャンプサイト」の2施設はどちらもキャンプ初心者向けのキャンプ場・宿泊施設であり、シェアの奪い合いが起きている可能性がある。
- ・水源地域における主要観光施設の特性を活かし、それぞれの施設のターゲット像を明確にした誘客対策が求められる。

⑤近隣観光地と比較して情報流通量が少ない

- ・グーグルトレンドを見ると、那珂川市の「人気度」は糸島市、宗像市、福津市といった他の競合観光地と比較して低い（10月上旬の人気度の上昇は、茨城県的那珂川の氾濫に伴う検索量の増加）
- ・那珂川市の情報流通量が少ないことから、魅力が伝わっておらず、検索される回数が少なくなっている可能性があり、情報発信の強化が課題となっている。



⑥地域の特性を活かした農産物等の開発ができていない

- ・ヤーコンやヤマモモ等の特産品の収量や、加工品のバリエーションは限定的であり、地域を代表するブランド力のある農産物・加工品の開発・販路拡大が課題となっている。

⑦二次交通の利便性が低い

- ・南畑発電所以南は公共交通がなく、博多南駅から五ヶ山地域への二次交通の利便性は低い。
- ・その他、道が狭い、夏季に渋滞が発生する等、交通における課題は多い。

⑧条件不利地域の維持における担い手の減少

- ・近年、気候変動に伴い大規模な台風、ゲリラ豪雨等の災害が拡大している。グリーンピア那珂川の一部施設の利用が困難な状況となるなど、水源地域においても土砂災害等の危険性が高い地域が多いことが課題として挙げられる。
- ・また、山間地ならではの獣害の増加、効率的な農業が困難な農地が多いなど、農業の生産性が平地と比較して低い。これらの地域では、人口減少に伴い耕作放棄地が拡大している。
- ・水源の涵養や災害の防止等の多面的な機能を持つ森林や田畑の保全は、水源地域の維持における非常に重要なテーマであるが、地域住民の高齢化や人口減少により、担い手の確保が大きな課題となっている。

3-3. 強み課題と基本方針・施策の方向性との関係

・以上の那珂川市水源地域の強みや課題と、地域を取り巻く外部環境を踏まえ、水源地域基本構想の基本方針や施策の方向性を下記に整理する。

那珂川市水源地域振興に向けた施策の方向性		外部環境の機会	外部環境の脅威
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプブーム、アウトドア需要の拡大 ・インバウンドの増加 ・東京オリンピック、世界水泳選手権福岡大会等の大規模スポーツイベントの開催 ・SNS、スマートフォン等の流行に伴う情報発信コストの低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による国内観光市場の縮小 ・国内外観光地間の競争激化 ・気候変動に伴う大規模災害の増加
那珂川市水源地域の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい自然・田園景観 ・水源地域ならではの観光資源・施設の存在 ・福岡都市圏に近接した立地環境 ・福岡都市圏在住、30～40代ファミリー世帯という固定客の存在 ・ブランド力のある企業の立地 ・地域を牽引するリーダー的人材・団体の存在 ・移住に向けた取組の蓄積、移住希望者の存在 ・吉野ヶ里とのアクセス性の良さ 	<p style="text-align: center;">強みとチャンスを活かしていくべき領域</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ターゲットの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡都市圏 30～40代ファミリー層の誘客 ・福岡都市圏アクティブシニアの誘客 ・福岡市から那珂川・吉野ヶ里方面へのインバウンドの誘客 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>水源地域の振興を担う人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を牽引するリーダーの支援 ・関係人口の拡大 ・企業・起業家の発掘・誘致 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>観光商品・特産品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水源地域の資源を活用した観光商品開発 ・ブランド製品の確立 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>水源地域のインフラ強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の利便性向上 ・回遊拠点の整備 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを明確にした情報発信 ・地域の情報発信・共有による立ち寄り場所の拡大 </div> <p style="text-align: center;">機会を活かして弱みを克服していく領域</p>	<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服していく領域</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ポジショニングの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手軽なアウトドア地域のイメージ確立 ・脊振山系（九千部山周辺地域）が連携した競合との差別化 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>中山間地域・山間部の維持・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の維持管理 ・利活用が困難な地域への適応 </div> <p style="text-align: center;">弱みを分析し、改善あるいは撤退すべき領域</p>
	那珂川市水源地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地来訪者の回遊が狭い ・水源地来訪者の観光消費額が低い ・季節で来訪者のピークとボトムの差が大きい ・水源地域にある各施設の役割分担が明確でない ・近隣観光地と比較して情報流通量が少ない ・地域の特性を活かした農産物等の開発ができていない ・二次交通の利便性が低い ・条件不利地域の維持における担い手の減少 	

4. 基本方針

4-1. ターゲット

①メインターゲット：福岡都市圏在住の30代～40代のファミリー層

- ・施設利用者アンケート調査を見ると、那珂川市を訪れている層は、福岡都市圏在住者が8割以上を占め、30～40代のファミリー層が主要な客層であった。また、利用者全体の7割がリピーターである。
- ・こうした現状の固定客をメインターゲットとして見据え、今後も関係性を維持しながら、新規の顧客に対してもリピーターとして何度も足を運んでもらうための施策を展開する必要がある。

②サブターゲット：福岡都市圏在住のシニア層

- ・アウトドアブームの要因として、可処分所得・時間の自由度が高いシニア層の存在が挙げられる。こうしたアウトドアを好むアクティブなシニア層も、本市の水源地域の重要なターゲットである。

③サブターゲット：東アジア地域をはじめとしたインバウンド

- ・東アジア諸国の経済成長を背景に、我が国を訪れるインバウンドは拡大を続けている。また、東京オリンピック、世界水泳選手権福岡大会などの大規模なスポーツイベントを控え、今後もインバウンドの増加が期待される。
- ・九州におけるインバウンドの玄関口である福岡市とのアクセスの良さを活かし、本市の水源地域としても、東アジア諸国の個人観光客を中心としたインバウンドの誘客に取り組んでいく必要がある。
- ・ただし、インバウンド市場は政治・経済・社会情勢による増減が大きいため、国内市場をメインとし、サブターゲットに位置づける。
- ・特に、アウトドア・キャンプが流行しており、訪日リピーターが多く、訪日一日あたり消費単価が大きい香港・台湾、また近年は政治情勢が不安定なものの、訪九州者が多い韓国等の東アジア地域が有望な対象になると考えられる。

4-2. コンセプト：都心から近いアーバンアウトドアの聖地

- ・水源地域のメインターゲットである福岡都市圏在住の30～40代ファミリー層やサブターゲット層に対して、「都心から短時間で来訪可能であり、手軽に安心して山・河川等の自然に触れ合うことができる」といったポジショニングを訴求することが有効と考えられる。
- ・上記の立ち位置を端的に表す表現として、これまで五ヶ山クロスのホームページ等で発信してきた「都心から近いアーバンアウトドアの聖地」というコンセプトを謳う。

4-4. 基本目標

- ・施策等の実施による成果を把握するための目標として那珂川市内での観光消費額及び南畑地域への来訪者の平均立ち寄り箇所数を KPI として、本計画の計画期間末である 2024 年の目標値を下記の通りに設定する。

	令和元年	令和6年
観光消費額	1,317 円	2,700 円
平均立ち寄り箇所数	1.56 箇所	2.3 箇所

①消費額

- ・本計画策定に向けて実施した施設利用者アンケートにおける南畑地域への来訪目的の回答結果と公益財団法人日本生産性本部が発行しているレジャー白書（2019）「余暇活動への参加・消費の実態（2018年）」における1回当たり費用から消費の期待値を試算すると4,417円となる。

【参考】施設利用者アンケート結果とレジャー白書（2019）の結果による消費の期待値試算

アンケート		レジャー白書		回答率 × 1回当たり 費用	消費の 期待値
選択肢	回答率	該当項目	費用		
キャンプ	20.3%	オートキャンプ	8,910	1,808	4,417
ドライブ	13.8%	ドライブ	1,850	256	
山水プール	31.2%	ピクニック、ハイキング 野外散歩	1,760	549	
バーベキュー	17.6%	バーベキュー	5,280	932	
川遊び	33.8%	ピクニック、ハイキング 野外散歩	1,760	595	
自転車コース	1.2%	サイクリング サイクルスポーツ	810	10	
登山	0.6%	登山	5,920	35	
昆虫採集	1.5%	ピクニック、ハイキング 野外散歩	1,760	26	
自然観察	4.4%	ピクニック、ハイキング 野外散歩	1,760	78	
買い物	1.2%	ウィンドウショッピング	470	6	
食事	3.2%	外食	3,090	100	
温泉	0.6%	温浴施設（健康ランド、クア ハウス、スーパー銭湯等）	1,410	8	
星空観察	0.9%	ピクニック、ハイキング 野外散歩	1,760	16	
業務・出張	0.3%	—	—	—	
帰省	0.9%	—	—	—	
その他	5.6%	—	—	—	

- ・上記で試算した消費の期待値については交通費も含まれた金額であるが、南畑地域への来訪者の大部分が福岡都市圏からの来訪者であること、公共交通手段による来訪は0.3%であること等を加味すると、交通費に関して那珂川市内での消費はほぼないものと考えられる。

- ・観光庁が公表している旅行・観光消費動向調査（平成30年1～12月期）によると「観光・レクリエーション」を目的とした個人の日帰り旅行における旅行中の消費額は13,766円であり、その内訳は交通費が5,222円、その他の費用が8,544円、その他の費用の比率が総額に対して62.1%となっている。
- ・以上の比率を用いて、那珂川市内における交通費を除いた消費の期待値を算出すると、2,741円（4,417円×62.1%）となることから、2024年の観光消費額の目標値を2,700円に設定する。

②立ち寄り箇所数

- ・施設利用者アンケートによると、立ち寄り箇所数が1箇所であったのは有効回答者304人のうち211人（69.4%）で、平均立ち寄り箇所数は1.56箇所となっている。
- ・一方で、2箇所以上立ち寄っている93人（30.6%）における平均立ち寄り箇所数は2.82箇所であり、複数箇所を訪れている人については比較的広域に回遊が見られる。
- ・南畑地域の情報発信強化や特産品の開発等により、1箇所のみを訪れる者と複数箇所への来訪者の割合を逆転させることを目標とし、以下の通り平均立ち寄り箇所数の目標値を設定する。

$$\text{立ち寄り 1 箇所} \times 30.6\% + \text{立ち寄り 2.82 箇所（上記、平均値）} \times 69.4\% = 2.26 \approx \underline{2.3 \text{ 箇所}}$$

【参考】他都市事例

都市名	年度	観光消費額	立ち寄り箇所数
福岡市	平成15年	12,829円	—
福岡市	平成22年	15,349円	2.7
玉名市	平成25年	3,500円	2.4
佐賀市	平成27年	6,779円	—
宗像市	平成30年	5,471円	1.79

5. 施策

5-1. 観光商品・特産品の開発

①水源地域の資源を活用した観光商品開発

- ・水源地域には、山・河川・田園等の様々な環境が存在し、トレッキング、キャンプ、サイクリング、ボート、川遊び等のアウトドアアクティビティや、農林業関連の資源に恵まれている。
- ・今後は、これらの素材どうしのつながりや、専門的な人材や地元住民との交流の場をつくることにより、体験観光商品等のサービスとして磨き上げるための施策に取り組む。

事業名	観光商品開発事業
	<ul style="list-style-type: none">・アウトドア関連のブランド向上につながるイベント・レースの開催や、実施団体の支援 →知名度のあるアスリートや企業の監修によるレースプロデュースならびに情報発信 →地域住民（特にコース地権者・管理者）、警察等の関係者の調整支援・ダム湖面や河川を活用したカヌーやキャニオニング、森林を活用した九千部山トレッキング、トレイルランニング、マウンテンバイク等のアウトドア専門家や旅行代理店、メディアと、地域の専門家人材が協力した体験観光商品（ルート、アクティビティ）の開発 →体験観光を得意とする旅行代理店、インターネット専業旅行代理店（OTA）への紹介・掲載等による販売支援 →地域内の宿泊施設や店舗等における体験観光商品の日常的な実施・販売の支援 →地域の魅力・遊び方を観光客に伝える専門家人材・コンシェルジュの育成・冬場など、季節ごとの水源地域の魅力を体験できる観光商品を開発・吉野ヶ里町をはじめとした周辺地域と連携し、アウトドア・農業・食・歴史文化等のテーマ性のある広域観光商品の開発

事業名	地域振興・アート関連イベント実施事業
	<ul style="list-style-type: none">・地域住民や自治会、地域団体、中核施設管理者等との連携による南畑美術散歩等の地域振興関連イベントの開催支援 →これまで市が実施してきた水源地域周辺イベントの企画運営等の事務局支援や、集客・広報を今後も継続

②ブランド製品の確立

- ・本市の水源地域では、自然薯、ヒノキなどの農林産品や加工品を有している。これらの特産品の栄養価やストーリーなどの価値を明確化し、地域独自のブランドとして発信していくことで、地域における観光・物産の経済波及を拡大させ、水源地域の知名度向上に寄与することが期待される。そこで、特産品のマーケティング戦略構築、ブランド確立に向けた施策を展開する。
- ・また、地域の農業所得向上による雇用の維持・拡大のためには、中山間地域ならではの自然環境・立地環境を活かした新たな農産物や加工品の開発に取り組む。

事業名	特産品マーケティング戦略策定事業
	<ul style="list-style-type: none">・競争力があり、生産体制が確立されている主要特産品の選定・絞り込み・主要な特産品について、ブランド価値を明確化するための定量データ（成分・立地環境等）や、生産者の思い、地域自体や物産の歴史・ストーリー等の基礎調査の実施・特産品のターゲット設定や、商品開発・販路開拓・価格設定・プロモーション手法等を含むマーケティング戦略の検討<ul style="list-style-type: none">→トップセールス、市のHP、広報、職員の名刺や封筒といった各種メディアを活用したプロモーションの実施→シェフ（高級飲食店向け）、バイヤー（飲食・小売店向け）、メディア（一般消費者向け）等の那珂川市への招請、産地や生産者の紹介→飲食店や小売店における期間限定フェア開催

事業名	食の特産品開発事業
	<ul style="list-style-type: none">・専門家・講師の指導による特産品開発<ul style="list-style-type: none">→商品や地域の特性、市内外の市場環境を踏まえた特産品開発→市内の加工施設等を活用し、生産・加工・デザイン等の専門家、アドバイザーによる支援の場づくり・市内外の主要販売拠点・Web等でのテストマーケティング

事業名	安定供給が可能な生産量確保に向けた各種支援事業
	<ul style="list-style-type: none">・食品・流通関連企業と協力したヤーコンの生産流通安定化<ul style="list-style-type: none">→ヤーコン部会と㈱クックチャムプラスシー、㈱ふくやとの連携協定（加工・販促等）の継続→連携協定先の製造・販売関連知見の導入によるヤーコンの安定生産量確保

5-2. 情報発信の強化

①ターゲットを明確にした情報発信

- ・水源地域のメイン・サブターゲット毎に、訴求すべき水源地域の価値を明確化する。
- ・前述のターゲットごとに最適なプロモーションツールを選択し、効果的・効率的な観光・物産プロモーションを実施する。

事業名	福岡市をはじめとした国内プロモーション事業
<ul style="list-style-type: none"> ・メディアからの取材（パブリシティ）増加に向けた情報発信先のリスト整備・更新、定期的なプレスリリースの継続 ・子育て関連メディア、国内アウトドアメディア等、水源地域がターゲットとする客層の利用頻度が高いメディアを通じた情報発信 <ul style="list-style-type: none"> →子育て関連・アウトドア関連雑誌や施設、店舗等と連携した広告出稿 ・冬場など、季節ごとの水源地域の魅力をターゲット別に整理し、効果的なメディアを選択したうえで発信 ・那珂川市 HP や SNS におけるプロモーション <ul style="list-style-type: none"> →夏季の検索数増加と連動した広告出稿 →福岡市内に住む子育て世帯等、属性を絞り込んだ上での SNS 広告 →子育て・アウトドア関連アプリ等を活用した広告出稿等のデジタルマーケティングの強化 	

事業名	台湾・香港・韓国向けインバウンドプロモーション事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット地域別に発信すべき観光資源の整理と、定期的見直し 		
	共通	個別
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア関連施設・体験 ・温泉 ・食 	・自転車ルート
香港		・トレイル・ドライブコース
韓国		・歴史・文化的資源
<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット地域に応じた観光・物産プロモーション <ul style="list-style-type: none"> →那珂川市関連サイト、観光案内ツールの多言語対応 →各国の観光情報入手の特徴を踏まえた情報発信 		
	共通	個別
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS（フェイスブック・インスタグラム） 	・ブログ・旅行代理店
香港		・雑誌・旅行ウェブサイト
韓国		・ブログ・旅行代理店
<ul style="list-style-type: none"> ・九州観光推進機構、福岡県、福岡市、吉野ヶ里町等と連携した海外観光プロモーション <ul style="list-style-type: none"> →JNTO（JETRO）等の政府機関、海外メディア、個人観光客が利用するオンライン旅行代理店等への共同セールスや、誘客イベント・展示会への共同出展、那珂川市への招請 		

②地域の情報発信・共有による立ち寄り場所の拡大

- ・観光消費額の増大においては、主要施設間の連携を促進するとともに、これまであまり知られていなかった観光スポットの認知度を向上することで、観光客の回遊を促し、滞在時間を伸ばすことが有効と考えられる。
- ・これらの立ち寄り場所の拡大、滞在時間の延長、ルートへの分散に向けた施策に取り組む。

事業名	地域内ネットワーク強化事業
	<ul style="list-style-type: none">・地域内における住民、民間事業者、行政の情報共有・ネットワーク強化に向けた取り組みを支援 →南畑地域活性化協議会の継続・支援による地域住民の情報共有促進、ネットワーク強化 →五ヶ山クロスネットワーク会議の継続・支援による主要観光施設と行政の情報共有促進、ネットワーク強化・行政内部における様々な担当部局間の情報共有の場づくり

事業名	地域の拠点における情報発信事業
	<ul style="list-style-type: none">・水源地域の主要集客・交流施設において、店舗、観光施設等の観光スポットや民間施設の紹介 →店頭・施設内へのチラシ、ポップ等の積極的な設置 →那珂川市公式 HP や、水源地域の主要施設 HP における他の観光スポット・民間施設の情報発信・メイン・サブターゲットを見据えた観光サインや、観光案内パンフレットの作成 →メイン・サブターゲット別に、提供する情報・観光スポット・民間施設を検討 →観光・交通の拠点における観光サイン・マップ、観光案内パンフレットの設置 →サイン・マップ・パンフレット等の多言語対応の推進

事業名	広域・地域内観光ルートの情報発信
	<ul style="list-style-type: none">・東脊振インターチェンジ、東脊振トンネルを活用した吉野ヶ里方面からのルートの発信 →那珂川市・吉野ヶ里町の観光資源をつないだ、国道 385 号の広域周遊ルートの発掘・歴史文化・自然・食等の旅のテーマ別、来訪目的別のモデルルートの作成・那珂川市・吉野ヶ里町と共同で観光ガイド本や HP 等のメディアを作成し、広域ルートを発信・佐賀市内で発信力を持つ個人・団体との連携等により、佐賀市方面から福岡を訪れる際のルートとしての情報を発信

5-3. 水源地域の振興を担う人材や組織の育成・誘致

①企業・起業家の発掘・誘致

- ・水源地域の振興においては、農業や観光等をはじめとした事業者・企業の力が欠かせない。こうした関連企業を発掘・育成するとともに、必要な場合は外部からの誘致に向けた事業を展開する。

事業名	水源地域の地域性にあつた企業の発掘・誘致
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・食品加工関連企業や観光関連企業、子育て・福祉関連事業所等の地域の特性に合った企業の育成・誘致 <ul style="list-style-type: none"> →都市との近接性、自然環境、田園景観、周辺アウトドア施設といった水源地の強みや、行政の各種企業誘致支援施策・移住定住支援施策を整理したセールスシートの作成 →誘致ターゲットとなる業種や規模等を絞り込み、ピンポイントで効率的・効果的に営業する体制の構築 ・ICTを活用し、場所に関係なく仕事ができる企業の誘致ならびにその受け皿づくり ・地域資源を活用した事業を展開する起業家、地域おこし協力隊の募集 ・新規事業、起業のアイデアを募り、専門家の知見を活かしながらプランを磨き上げる場づくり <ul style="list-style-type: none"> →起業・新規事業計画の精査、助言、体制構築支援、資金調達計画等を支援

②関係人口の拡大による移住促進

- ・那珂川市の水源地域は、何度も足を運んでくれる固定客を有することが最大の強みの一つである。水源地域への観光をきっかけに、何度も地域を訪れるうち、ゆくゆくは移住や新規就農につながるような展開が期待される。そのため、これまで以上にリピーターを増やすための取り組みを実施する。
- ・本市の移住定住事業は一定の成果を挙げており、これまで実施してきた移住交流促進センター関連事業を継続する。

事業名	南畑地区移住促進事業
	<ul style="list-style-type: none"> ・移住交流促進センター「SUMITSUKE」を核とした中山間地域の移住定住関連事業の継続・拡大 <ul style="list-style-type: none"> →空地・空き家と移住希望者のマッチング支援（SUMITSUKE 那珂川への物件登録等） ・移住・定住・関係人口の拡大に向け、地域住民・地域資源への理解を深めることが可能なきめ細やかな機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> →南畑地域における移住促進イベントの開催等、移住希望者と地元住民との交流機会を創出する事業の継続

③地域づくりを牽引するリーダー・組織の支援

- ・これまで、那珂川市の水源地域においては、地域住民・団体と、行政が協働しながら、移住定住対策や各種イベント等の各種事業に取り組んできた。今後も引き続き、水源地域の担い手となる人材や組織の支援・育成に取り組む。

事業名	地域づくりを牽引する人材・組織の強化に向けた事業
<ul style="list-style-type: none">・水源地域のまちづくりを推進する組織と連携した人材育成・研修事業 →既存事業を活用した人材育成・研修の実施・地域内におけるまちづくり関連人材の発掘ならびに、まちづくり推進組織への誘引・既存のまちづくりの担い手組織（南畑地域活性化協議会）の安定化に向けた支援	

5-4. 水源地域のインフラ強化

①交通の利便性向上

- ・水源地域においては、南畑発電所以南の公共交通や、主要公共交通拠点から水源地域までのバスやレンタカー等の二次交通、また道路の狭い区間、夏場の渋滞等、交通に関連する課題がある。
- ・これらの課題解決には多大な経営資源と一定の時間が必要と考えられるが、交通の課題解決に向けた取り組みは水源地域の振興における重要度が高いため、利便性向上に向けた施策を展開する。

事業名	交通の利便性向上関連事業
	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域の主要幹線である国道 385 号の道路拡幅・自転車道拡幅整備に向けた取組の継続・実施 ・夏季、ホテルの時期等、繁忙期における水源地域内の施設・店舗等、民間事業者との交通面での連携強化 ・現在運行しているかわせみバス事業の維持

②回遊拠点の整備

- ・五ヶ山クロス、中ノ島公園等の水源地域の回遊拠点となる主要観光施設については、運営事業者等との緊密な連携のもと、さらなる魅力向上や課題解決、自然環境や拠点施設の維持・保全に共に取り組む。

事業名	施設運営指定管理者委託事業										
	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域の主要回遊拠点である五ヶ山クロス・中ノ島公園の継続的運営 ・拠点施設運営事業者との連携による水源地域の各種課題解決支援 ・各拠点施設は、経済・社会情勢や収益性を踏まえながら、運営体制の在り方を継続的に検討 ・各拠点施設に求められる機能は以下の通り 										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">拠点施設</th> <th>求められる機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中ノ島公園</td> <td>水源地域の福岡市側の入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化</td> </tr> <tr> <td>五ヶ山クロス グリーンピアなかがわ</td> <td>ファミリー向けのレジャー機能や、大人数向けの宿泊拠点としての機能強化</td> </tr> <tr> <td>五ヶ山クロス ベース</td> <td>佐賀方面からの入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化</td> </tr> <tr> <td>五ヶ山クロス キャンプサイト</td> <td>少人数向けの宿泊ならびにアウトドア体験の場としての機能強化</td> </tr> </tbody> </table>	拠点施設	求められる機能	中ノ島公園	水源地域の福岡市側の入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化	五ヶ山クロス グリーンピアなかがわ	ファミリー向けのレジャー機能や、大人数向けの宿泊拠点としての機能強化	五ヶ山クロス ベース	佐賀方面からの入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化	五ヶ山クロス キャンプサイト	少人数向けの宿泊ならびにアウトドア体験の場としての機能強化
拠点施設	求められる機能										
中ノ島公園	水源地域の福岡市側の入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化										
五ヶ山クロス グリーンピアなかがわ	ファミリー向けのレジャー機能や、大人数向けの宿泊拠点としての機能強化										
五ヶ山クロス ベース	佐賀方面からの入口機能ならびに休憩・立ち寄り拠点としての機能強化										
五ヶ山クロス キャンプサイト	少人数向けの宿泊ならびにアウトドア体験の場としての機能強化										

5 - 5. 中山間地域・山間部の維持・保全

①森林の維持管理

- ・森林の担い手の育成、支援や、市内外の山岳愛好家やボランティア等との協働による保全活動など、森林の多面的機能の維持及び向上につながる施策に取り組む。

事業名	森林維持管理関連事業
	<ul style="list-style-type: none">・森林の維持保全や活用に関連する担い手の育成支援 →森林の維持保全・活用に関連した創業・新規就業から安定的な操業までの期間の各種支援・地元の森林の担い手や、市外の九千部地域のファンと連携した森林の維持・保全活動の推進・荒廃森林整備事業の継続的实施

②利活用が困難な地域への適応

- ・山間部や里山においては、人口増加とともに開墾された、地形・水の確保等の面で農業に本来適していない農地や、耕作放棄地が存在する。そのため、ハゼ、ヤマモモ、山菜等、環境に適した農林産物・景観作物の栽培を検討する。

事業名	耕作放棄地対策事業
	<ul style="list-style-type: none">・新規就農者と耕作放棄地の所有者とをつなぐマッチングシステム構築の検討